



1



2

打ちたてそばに舌鼓

第20回猪苗代新そば祭り

第20回猪苗代新そば祭りは11月12、13の両日、カメリーナで開かれました。県内外から2日間で4000人を超えるお客さんが訪れ、猪苗代の新そばを堪能しました。

今年は2日間で約4,500食を提供。そばは、温かい「祝言そば」と「ざるそば」が提供され、「てんぷらの盛り合わせ」やソバの実で作った「そばがゆ」も用意されました。

会場内では、「猪苗代手打ちそばの会」の名人たちによるそば打ちの実演のほか、ステージアトラクションとして日本舞踊や「猪苗代そば口上」が披露され、順番を待つ来場者の目を楽しませました。

物産市では、猪苗代在来種そば粉「いなわしろ天の香」や町のブランド米「いなわしろ天のつぶ」、生そばのほか、町内の農業生産者らによる野菜などが販売され、訪れた多くの来場者でにぎわいました。

福島市から家族で訪れた橋本久美子さんは「子どもたちもそばが大好きで、毎年新そば祭りに来ています。今年の新そばもとてもおいしいです」と感想を話しました。



3



4



5



6



7

1_福島市から来場した橋本愛さん(右)と萌さん 2_来場者でにぎわう会場 3_野菜などの農産物が並んだ物産市 4_そば打ちの実演を行う名人たち 5_大好きなそばを夢中で食べる白井風雅さん(半坂) 6_来場者の目を楽しませたステージアトラクション 7_会場内ではそば菓子などの商品を販売した



八子理事長(左)から賞状を受ける畠山氏

Pick Up

今月のイベント

野口英世記念 医学賞授賞式

細菌やウイルスなどの優れた医学研究を顕彰する第59回野口英世記念医学賞授賞式は11月5日、野口英世至誠館で行われ、東京大学大学院医学系研究科教授の畠山昌則氏の功績をたたえました。

授賞式では、野口英世記念会の八子弥寿男理事長が「医学の進歩は目覚ましく、科学者による研究が進められているが、今なお重大な疾病がある。中でも、日本人の胃がん発症率は高く、畠山教授の功績は大きい」と式辞を述べ、畠山氏に賞状を手渡しました。また、畠山行副知事、前後公町長、ガーナのシルベスタ・ジウドウ・パポ・パーカー・アロテ駐日大使、谷口維紹東京大学生産技術研究所特任教授が祝辞を述べました。

受賞研究は「ピロリ菌感染を基盤とする胃がん発症機構の研究」。ピロリ菌が保有するタンパク質「CagA」が胃の細胞のがん化を強く促すことを発見。一連の先駆的研究を通して、ピロリ菌による胃がん発症の分子機構解明に大きく貢献しました。

畠山氏は「千円札の肖像にもなっている野口英世博士は、医学者として群を抜く存在であり偉人です。受賞は大変に光栄であり、多くの人の協力に感謝します」と謝辞を述べました。

まちの応援マガジン いなわしろ 広報猪苗代

Nov.2016
12
No.674

今月の表紙



【撮影日】 11月2日

【撮影場所】 ひまわりこども園

ひまわりこども園で行われたJR社員との交流会での一コマ。段ボールで作った特製の電車で楽しく電車ごっこ。園児は、本物の運転手さんや車掌さんと一緒に、鉄道について学びました。(関連15ページ)

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 第20回猪苗代新そば祭り
- 04 「道の駅猪苗代」がオープン
- 06 第28回ふくしま駅伝
- 08 自治功労者表彰式・合同表彰式感謝状贈呈式
- 10 まちのわだい
- 14 笑顔でこんにちは／ホットニュース
- 15 スクールトピックス
- 16 いなわしろタウンページ
- 22 暮らしの情報広場
- 24 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー